

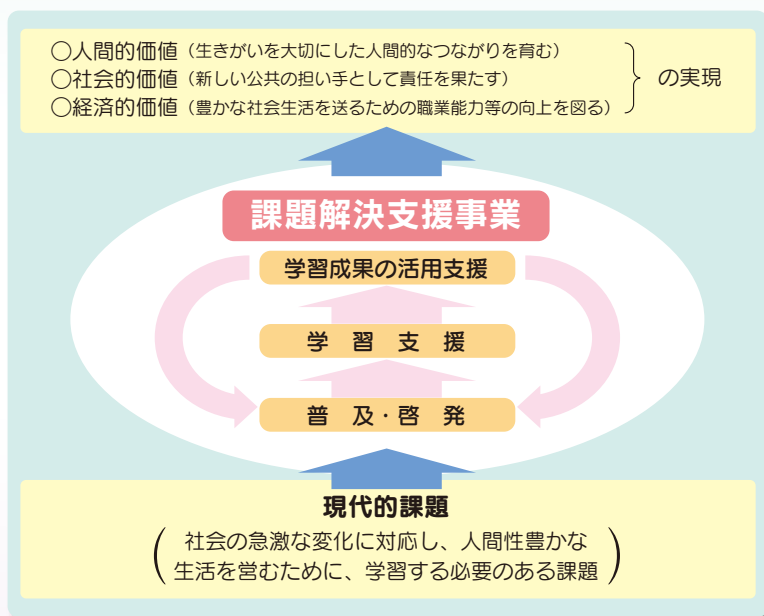
# みんなの願いや地域のいまを考え、行動する。 それは、あすのあなたと地域が変わることにつながります。



①三世代交流



②ICT活用による地域づくり



③地域で支える介護サービス



④学校支援



# 課題解決支援講座

平成22年度実施概要

## I 次世代育成編 (子どもを育てる地域の底力！)

平成22年6月12日(土)・19日(土) 受講者数50名

### 【講義】「地域活動を通して青少年を育む」

東京家政大学人文学部教授 山本 和人 氏

#### 受講者の感想

学校で学んだことだけが学習ではなく、自分で経験したこと、地域で学んだことを通して子どもたちに教えていくことが大事だとわかった(30代女性)。知の循環という考え方を学んだ(40代男性)。地域課題は自分で見つけなければならない。一步を踏み出すことが大切であると感じた(50代女性)。

### 【事例研究】「活動事例から学ぶこれからの青少年育成」

コーディネーター：共愛学園前橋国際大学国際社会学部長 大森 昭生 氏

### 【事例発表】「公民館を拠点に学校・地域連携」(高崎市)

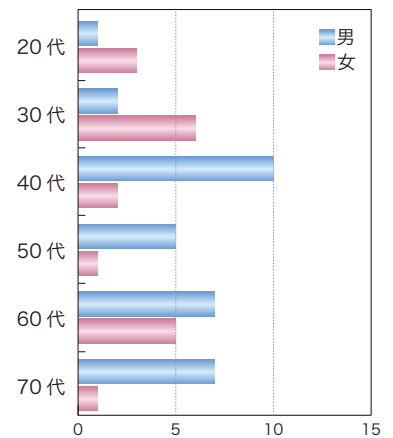
高崎市乗附公民館 主任主事 平石 貴文 氏

### 「地域子どもサポート事業で青少年育成」(埼玉県川越市)

川越市教育委員会地域教育支援課 主査 新家子直之 氏

川越市大東南公民館 主任 木村 史隆 氏

受講者の年代別内訳



#### 受講者の感想

地域の人々の相互連携は、地域の力を強めることになるし、質のよい教育で個々の力も伸ばすことができると感じた(20代男性)。地域の特性を生かした活動を実施し、人とのふれあいを大切にしたい取り組みが大事であると気づいた(50代男性)。「学校あつての地域、地域あつての学校」の言葉が印象に残った(60代男性)。



山本和人氏



大森昭生氏



平石貴文氏



木村史隆氏・新家子直之氏

## II ICT活用による地域活動編 (ICTが変える！新しい地域づくり)

平成22年7月10日(土)・17日(土) 受講者数69名

### 【講義】「ICTによる新しい地域づくり・縁づくり」

日本社会情報学会所属・名古屋大学研究グループ 吉田 千穂 氏

#### 受講者の感想

地域と日常生活のつながりをはっきりと理解し、地域活動にICTを活用できればと思う(20代女性)。地域づくりにICTが貢献できることを知った(50代男性)。人と人との縁づくりをベースに、インターネット上の関係を築くことがよいと思った(60代男性)。ツイッターを活用した地域おこしを初めて知った(70代男性)。

### 【事例研究】「活動事例から学ぶICT活用の地域づくり」

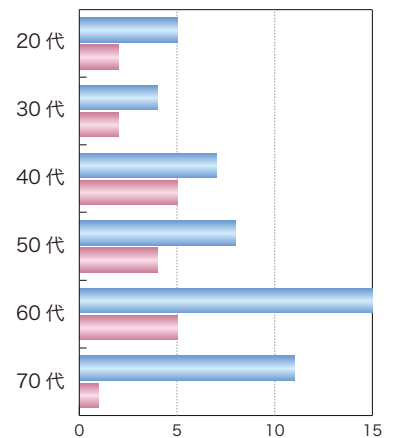
コーディネーター：群馬大学社会情報学部教授 森谷 健 氏

### 【事例発表】

前橋市荒牧町自治会広報委員ホームページ担当 春山 義夫 氏

神奈川相模原市立小山公民館 文化部副部长 広報事業班班長 村田 真人 氏

受講者の年代別内訳



#### 受講者の感想

ICTによる広報活動は重要であり、住民のつながりと地域の活性化にとって大切だと感じた(20代女性)。先進的・具体的な取組がわかり、ホームページは有効であり作ってみたいと思った(30代男性)。実際のホームページ運営のアイデアがよくわかった。トラブルについての内容も参考になった(50代女性)。ICTで地域活動をするのは、時代の先取りのように思えた(60代男性)。地域の中にホームページにかかわった経験者はいるはず。積極的な人材を発掘したい(70代男性)。



吉田千穂氏



森谷健氏



春山義夫氏



村田真人氏

### III 男女共同参画編 (男も女も支え合う！これからの介護あれこれ)

平成22年11月27日(土)・12月4日(土) 受講者数94名

#### 【講義】「地域で支える介護を考える～がんばりすぎない介護のすすめ～」

がんばらない介護応援団長・高齢化社会をよくする虹の仲間運営委員長 野原すみれ 氏

#### 受講者の感想

介護はエネルギーが必要。地域社会とのつながりを持って介護をすることが重要である(40代男性)。介護者は忙しい中にも自分で無理をせず、意識的に楽しいことやストレス解消をすることを見つけ、ゆとり、余裕を作ることが大事である(50代女性)。笑顔で暮らせる安心介護は、その人に寄り添うことこそ、一番大切である(60代女性)。日頃から、社会や地域に目を向け人間関係を築いて暮らすことを心がけたい(60代女性)。

#### 【事例研究】「事例から学ぶ安心して暮らせる地域づくり」

コーディネーター：高崎経済大学地域政策学部教授 細井 雅生 氏

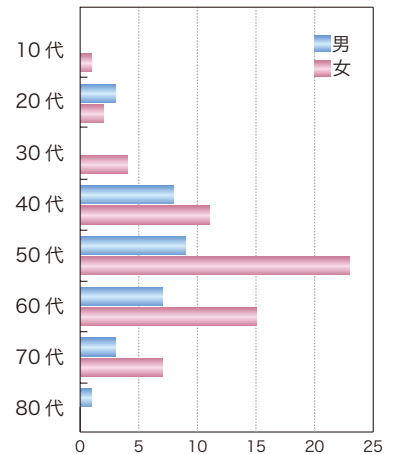
#### 【事例発表】「小規模多機能型居宅介護を拠点に地域づくり」(高崎市)

NPO法人じゃんけんぼん 理事長 井上 謙一 氏

#### 「男性介護者がすすめる介護ネットワークづくり」(神奈川県横浜市)

男性介護者サポートネットワーク かいご勝手連 代表 田中 秀行 氏

受講者の年代別内訳



#### 受講者の感想

介護を自分の問題としてとらえ、地域から働きかけ、地域社会の中でできることを実践する(50代男性)。介護は女性が担う風潮があるが、これからは男性も参加し、女性が介護疲れにならないように、男女共同で担っていくことが大事(50代女性)。男性と介護の結びつきの難しさと、結びついていない現実を認識した(60代女性)。なかなか地域の活動に入っていく機会がないが、ネットワークづくりに参加していきたい(70代女性)。



野原すみれ氏



細井雅生氏



井上謙一氏



田中秀行氏

### 学校支援ボランティア応援セミナーⅠ 入門編

(はじめての学校支援ボランティアのすすめ) 平成22年7月3日(土) 受講者数52名

#### 【講義】「学校を地域の方で支える学校支援ボランティアについて」

県教育委員会 生涯学習課 社会教育主事 中澤 陸宏 氏

#### 【事業説明】「学校支援センター・学校支援地域本部事業について」

県教育委員会 義務教育課 指導主事 清田 和泉 氏

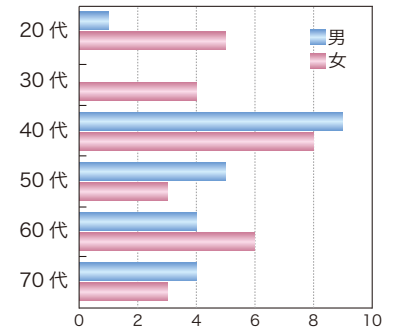
#### 【事例発表】「地域住民の力を活かした学・社・民の融合による教育の推進」

新潟市教育委員会 地域と学校ふれあい推進課 副参事・指導主事 江口 滋 氏

#### 受講者の感想

子どもたちのためにも学校と地域の結びつきが大切ということを再認識できた。子育ては学校任せでは駄目だという認識の浸透が必要である(40代女性)。ボランティアで学習支援をする時に、楽しむことを心がけていきたい(40代女性)。疑問に思っていたことが解消に近づき、具体的な手がかりとなった(70代男性)。

受講者の年代別内訳



### 学校支援ボランティア応援セミナーⅡ スキルアップ編

(あなたの力をアップする学校支援ボランティアのすすめ) 平成22年11月20日(土) 受講者数63名

#### 【講義】「これからの学校支援ボランティアの可能性」

#### 【グループワーク】「私たちにできる新たな提案」

国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部 総括研究官 笹井 宏益 氏

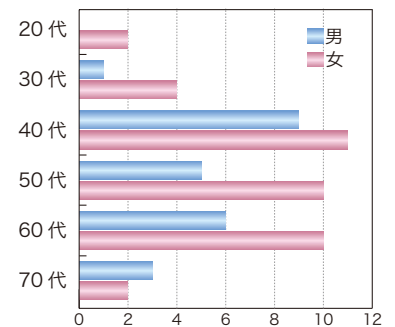
#### 【事例発表】「うえにの森(学校支援センター)からボランティア活動」

伊勢崎市立殖蓮第二小学校 学校支援ボランティアコーディネーター 細野 佳子 氏

学校支援ボランティアリーダー 茂木 公子 氏

#### 受講者の感想

学校と地域がうまく連携できる仕組みづくりをしていくことが大切である(20代女性)。ボランティア活動の成果を地域と共有することが大切であり、もっと発信していきたい(30代女性)。コーディネーターとリーダーの2つの核をそれぞれ学校側とボランティア側とで、しっかり制度化することが重要である(50代女性)。



清田和泉氏・中澤陸宏氏



江口滋氏



笹井宏益氏



細野佳子氏・茂木公子氏



# 平成23年度「課題解決支援」に関する事業体系の概要

## 普及・啓発

○「まなびねっとぐんま」を活用した情報提供  
(群馬県生涯学習情報提供システム)

○普及資料の発行

：課題解決支援事業

：主な関連事業

## 学習支援

### 課題解決支援講座Ⅰ (ICT活用による地域活動編)

趣旨：新しい地域づくりの視点として、ICTを活用した地域活動について、その現状や課題、またその担い手として求められる基本的な視点や知識について学ぶ。

期日：6月11日(土)・18日(土)

対象：県民一般

定員：50人

### 学校支援ボランティア応援セミナーⅠ (入門編)

趣旨：地域の教育力を学校の教育活動等に生かすための学校支援ボランティアに求められる基本的な知識・技術等について学ぶ。

期日：7月2日(土)

対象：学校支援ボランティアとして現在活動中または今後活動を希望する方等

定員：50人

### 子育て支援応援フォーラム

趣旨：子育て支援に関する最新の動向、実践事例、グループ運営方法や協働の在り方等について研修を行い、関係者の資質・能力の向上を図る。

期日：11月10日(木)

対象：親、行政担当者、NPO・ボランティア団体関係者、子育て支援活動に関心のある方

定員：100人

### 地域ICTリーダー養成講座

趣旨：情報社会の著作権とモラル、ホームページの制作方法及び地域における情報発信の方法等の研修を通して、地域の情報化を推進するリーダーの養成を図る。

期日：7月9日(土)・16日(土)・23日(土)

対象：県民一般

定員：15人

### 学校支援ボランティア応援セミナーⅡ (スキルアップ編)

趣旨：学校支援センター事業の一層の充実に向け、学校支援ボランティアとしての資質向上を図るための知識・技術等について学ぶ。

期日：11月19日(土)

対象：学校支援ボランティア又はコーディネーターとして現在活動中の方等

定員：50人

### 課題解決支援講座Ⅱ (男女共同参画編)

趣旨：男女共同参画の視点から個人、家庭人、地域人、職業人としてバランスのとれた活動を展開し、豊かな人生の実現を図るために求められる基本的な知識や具体的な取組について学ぶ。

期日：11月26日(土)・12月3日(土)

対象：県民一般

定員：50人

## 学習成果の活用支援

- 地域の教育力向上(学校支援ボランティア養成やICTを活用した地域活動支援等)
- 家庭の教育力向上(子育て支援ボランティア養成・スキルアップ研修の推進)
- 学習支援者の情報発信機能充実(「まなびねっとぐんま」の「講師・人材情報」「団体情報」への登録や活動紹介等の推進)
- 地域活動を行う各種団体やNPO等の紹介

## 学習プログラムの研究開発(新規)

趣旨：県民や市町村の学習支援に資するため、学習プログラム研究開発協力者会議(学識経験者、各教育事務所社会教育主事、当センター職員等から構成)を設置し、センター主催の課題解決支援講座や市町村・公民館等主催の現代的課題に関する事業に関して、モデル的なテーマ・内容・方法や地域の特性を生かした実践的な学習プログラムの研究開発等を実施。

### 〔事業実施上の留意点〕

- 1 「循環的な事業展開システム(普及啓発→学習支援→学習成果の活用支援→普及啓発→…)」の推進
- 2 「学習成果の活用支援」の充実

### 〔今後の支援講座のテーマ設定・学習プログラム研究開発について〕

- 中央教育審議会答申(平成20年2月)の生涯学習振興施策を推進する際の留意点として提言された「人間的価値・社会的価値・経済的価値等の調和を図る視点」を踏まえたテーマ設定や学習プログラムの研究開発に努めます。
- 平成22年度生涯学習基礎調査「市町村における現代的課題に関する事業の実態調査～学習成果の活用と評価の観点から～」(詳細は当センターホームページに掲載)において、課題として明らかになった「学習成果の活用・評価を想定した学習プログラムの必要性」を考慮し、モデル的な学習プログラムの研究開発を推進します。
- 平成22年度課題解決支援講座の受講者アンケートで、今後学びたい主なテーマとして回答があった「地域の連帯」「まちづくり」「NPO・ボランティア活動支援」「子育て支援」「介護・福祉」「家庭・家族」等を参考にしてテーマを検討・設定します。

〔表紙写真〕 ①「三世代ふれあい交流の運動会」高崎市乗附公民館 ②課題解決支援講座Ⅱ「ICT活用による地域活動編」基調講義  
③「小規模多機能の家」NPO法人じゃんけんぼん ④「学校支援ボランティアによる花壇づくり」伊勢崎市立殖蓮第二小学校  
上記①③④は、平成22年度課題解決支援講座で事例発表していただいた団体の提供によるものです。詳細は群馬県生涯学習センターホームページをご覧ください。